

STEP2：合意形成のために本人と話し合う

看護師の情報を受け主治医は楠木さんの生活や考え方を十分に聞いて、今後どのように治療を進めるのがよいかを話し合う必要を感じた。しかしながら外来が忙しく十分な時間をとることができないため、自分の同僚に楠木さんとの話し合いを依頼することにした。

（以下は楠木さん役のみに提供する背景情報）

楠木さん 84 歳男性

現在妻と二人暮らし

若い頃は建築会社でサラリーマンとして働いていた

専門は建築で二級建築士の資格をもつ

若い時からプロジェクトの責任者を任されることが多く、そのことを自負している

今の楽しみはテレビを見ること

読書も好きで、分野は様々だが歴史ものが好き

庭いじりをするのが楽しみだったが、庭いじりが難しくなったらからは盆栽を手入れしていた

この3か月は膝の痛みのため盆栽の手入れも難しい

とにかく痛みがなく身の回りのことを自分でやりたい

自分自身のことを自分で決めて行動することが大切

人の世話にはなりたくないという思いが強い

ここ3か月は、妻に介護の負担をかけており、妻の体調を心配している

嫁は協力的だが、嫁やホームヘルプの支援なしで何とかならないかと考えている

盆栽の手入れもろくにできないことが気になっている

痛み止めはあまり効果的でなかった経緯から、薬を変更しても期待が薄いと感じている

必ずしも痛みが良くなるのに、手術がうまくいかなかった場合の結果が重大で迷っている

死ぬのは怖くないと思っていたが、この膝の手術をして急に血の塊ができて突然死んでしまうかもしれないと考えたら、心の準備ができていないため不安が強くなってしまっている